

心理学的な理論と支援(司法・犯罪心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	小林 万洋	

■授業のテーマ

司法・犯罪心理学：社会と個人の安全と共生をめざす

■授業の目的

犯罪理論、刑事政策、一連の司法手続における心理職の役割、被害者支援等の理解を踏まえながら、司法・犯罪分野における心理学的な理論と支援について概観することを目的とします。また、司法・犯罪領域における基本的なキーワードの理解を深めます。

■授業の到達目標

- ①非行・犯罪理論について説明できる。
- ②非行・犯罪の実態について説明できる。
- ③非行・犯罪の抑止に取り組む各機関の機能と心理職の役割について説明できる。
- ④非行・犯罪に係る心理的アセスメント・心理学的支援について説明できる。
- ⑤司法面接について説明できる。
- ⑥犯罪被害者の支援について説明できる。
- ⑦犯罪・非行に関わる被害体験について説明できる。
- ⑧自傷行為・自殺に至る心理とその対処方法について説明できる。

■授業の概要

テキストに沿って①犯罪・非行理論、②犯罪・非行の実態、③刑事政策、④一連の司法手続における諸機関・諸分野（警察、裁判所、家庭裁判所、矯正分野、更生保護分野、児童福祉分野）での心理職の役割、⑤犯罪者と犯罪性のアセスメント、⑥嗜癖・依存への心理学的アプローチ、⑦司法面接、⑧犯罪被害者支援、⑨犯罪・非行に関わる被害体験、⑩自傷・自殺に至る心理とその対処方法について学びを深めます。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	司法・犯罪心理学の実践を学ぶ(テキスト*1の序章)	司法心理学、犯罪心理学、司法・犯罪領域の心理職	司法・犯罪心理学の心理学的な理解と支援を学ぶにあたり、この領域が扱うテーマや職域を概観します。
2	犯罪とは－犯罪・非行理論を概観する(テキスト*1の第1章)	古典派、実証主義、緊張理論、統制理論、学習理論、ラベリング理論、ライフコース理論	犯罪・非行を理解するための代表的な理論を学びます。
3	犯罪・非行の実態－日本の犯罪・非行の状況を知る(テキスト*1の第2章及び参考文献4)	公式統計、自己申告式犯罪調査、犯罪被害者調査、刑法犯、特別法犯	犯罪・非行の実態を把握する方法や我が国における犯罪・非行の動向について理解を深めます。テキスト*1を参考にしつつ、参考文献4により最新の犯罪・非行の動向について理解を深めてください。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
4	日本の刑事政策－非行・犯罪を起こした人はどうなるのか(テキスト*1の第3章及び参考文献4)	刑事事件、少年事件、警察、検察庁、裁判所、刑務所、保護観察所、家庭裁判所、少年鑑別所、少年院、児童自立支援施設、原則逆送	刑事司法手続、少年司法手続に関わる一連の機関について学びます。なお、参考文献4により刑法の一部改正による拘禁刑の新設と、少年法改正による特定少年について、最新の知識を確認してください。
5	警察の中での心理学・心理職－専門性を活かすために(テキスト*1の第4章)	地域警察活動、防犯環境設計、科学警察研究所、科学捜査研究所、犯罪の1次～3次予防	警察の特徴と警察における心理職の役割・犯罪予防と、エビデンスの利用・創出についての理解を深めます。
6	家庭裁判所－少年と家庭の将来を見据えた司法的解決を目指して(テキスト*1の第5章)	少年事件、家事事件、人事訴訟、家庭裁判所調査官、法的調査、要保護性、教育的措置(保護的措置)、試験観察、ハーグ条約、家事審判、家事調停、児童の権利に関する条約、親権、面会交流	家庭裁判所が扱う事件の内容や家庭裁判所調査官の職務の理解を通じて、司法の場で心理学の知見が活用された心理学的支援が展開していることを学びます。
7	矯正－施設内処遇から社会復帰へ(テキスト*1の第6章)	少年鑑別所、鑑別、観護処遇、地域援助、法務少年支援センター、少年院、特定生活指導、矯正処遇、特別改善指導、一般改善指導、再犯防止等の推進に関する法律(再犯防止推進法)、認知行動療法、動機づけ面接法、再犯者率、特別調整	矯正施設(少年鑑別所、少年院、刑事施設(刑務所、少年刑務所、拘留所))における心理学的支援の特徴と課題について学びます。
8	更生保護－地域社会における指導と支援(テキスト*1の第7章)	更生保護、更生緊急保護、生活環境の調整、仮退院、仮釈放、保護観察、地方更生保護委員会、保護観察所、保護観察官、保護司、一般遵守事項、特別遵守事項、更生保護施設、自立準備ホーム、BBS、専門的処遇プログラム、再犯防止推進計画、地域生活定着支援センター、社会的包摂	地域社会における指導と支援を行っている更生保護分野における心理学的支援の特徴と課題について学びます。
9	児童福祉－少年非行と児童虐待が交錯する臨床の最前線(テキスト*1の第8章)	犯罪少年、触法少年、ぐ犯少年、虐待、複雑性PTSD、世代間連鎖、児童相談所、児童心理司、一時保護、共同面接、司法面接、児童自立支援施設、児童養護施設、家族再統合	犯罪・非行、虐待といった観点から、児童福祉領域における犯罪心理学の実践について学びます。
10	犯罪者と犯罪性のアセスメント－再犯の可能性を予測する(テキスト*1の第9章)	処遇調査、調査センター、法務省式ケースアセスメントツール、受刑者用一般アセスメントツール、保護観察におけるケースフォーミュレーション、リスクアセスメント、RNRモデル(リスク原則、ニード原則、反応性原則)、犯因性ニーズ、セントラルエイト	刑事施設における受刑者のアセスメントの実際について学びます。
11	行動変容－嗜癖・依存への心理学的アプローチ(テキスト*1の第10章)	認知行動療法、学習理論と認知理論に基づくアプローチ、オペラント条件付け、レスポナント条件付け、三項随伴性、嫌悪療法、キュー・エクスポージャー、認知再構成法、施行記録表、ステージ変容理論、動機づけ面接法、コミュニティ強化アプローチ、リラプス・プリベンション、アンガーマネジメント、アサーショントレーニング、マインドフルネス、グッド・ライブズモデル、共依存、就労移行支援施設	嗜癖や依存の問題を中心に行動変容の心理学的アプローチについて学びます。
12	司法面接－司法場面における子どもへの面接と多職種協働(テキスト*1の第11章)	クリーブランド事件、マクマーチン事件、司法面接、よき実践のためのメモ、多機関多職種連携、NICHHDプロトコル(日本語版ガイドライン)、協同面接、供述弱者	司法の場で子どもから体験した出来事や、子どもの意向を聴き取る際に用いられる司法面接の方法について理解を深めます。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
13	犯罪被害者支援と援助者の二次的外傷性ストレス—犯罪被害者等の現状と実践的アプローチ(テキスト*1の第12章)	犯罪被害者等、トラウマ、心的外傷後ストレス障害、全国被害者支援ネットワーク、犯罪被害者等基本法、犯罪被害者等基本計画、解離症状、記念日反応、急性ストレス障害、複雑性PTSD、複雑性悲嘆、ポストラウマティック・プレイ、犯罪被害者等早期援助団体、ワンストップ支援センター、持続エクスポージャー療法(PE)、眼球運動による脱感作及び再処理法(EMDR)、二次的外傷性ストレス	犯罪被害者支援の概要と歴史、その支援の実際として、犯罪被害者等の心理や支援方法のほか、援助者の二次的外傷性ストレスについて学びます。なお、犯罪被害者等基本計画については最新の情報を確認してください。
14	犯罪・非行に関わる被害体験(テキスト*2の第4章)	児童虐待、機能不全家庭、トラウマとPTSD、複雑性PTSD、愛着(アタッチメント)、内的作業モデル、愛着のモデル、愛着障害、ACE研究	家庭内での虐待などの不当な取扱いが、子どもの心身の発達にどのようなダメージを与えるかについて、トラウマ(心的外傷)及び愛着の観点から学びます。
15	自傷行為と自殺(テキスト*2の第6章、第7章)	自己をコントロールするための自傷、周囲をコントロールするための自傷、自殺の危険因子、自殺の直前のサイン	自傷行為や自殺に至る心理を理解し、その対応について学びます。

■レポート課題

課題1	司法・犯罪領域における心理学的支援の在り方について、犯罪・非行理論、心理学的支援法の技法等を踏まえつつ、あなたの見解を述べなさい。
課題2	被害体験と非行・犯罪行為との心理学的な関係について、あなたの見解を述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



特定の司法・犯罪領域における心理学的支援、あるいは領域全般にわたっての支援といういずれの捉え方でも差し支えありませんが、犯罪や非行を行った当事者に対して、あなたが望ましいと考える介入、支援方法について、犯罪・非行理論や心理学的支援法の各種技法を踏まえた上で、自由に論じてください。



司法・犯罪領域において、被害体験と加害行為が関係していると理解されるケースは少なくないですが、一方、被虐待の被害経験をした者全てが非行・犯罪を行うわけではありません。その違いをどのように理解するか、心理学的な観点から論じてください。

■評価の方法・基準

課題レポート60%、試験レポート40%

司法・犯罪心理学における知見を用いながら、自ら思索した内容を自らの言葉で適切に表現したかを評価します。

■参考文献(*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 門本泉(編著)2020『司法・犯罪心理学 社会と個人の安全と共生をめざす』ミネルヴァ書房
- *2) 法務省矯正研修所(編)2020『研修教材 増補改訂版 矯正心理学』公益財団法人矯正協会
- *3) 鴨下守孝(編集代表)2019『新訂 矯正用語事典』東京法令出版
- 4) 法務省法務総合研究所(編)2025『令和7年版犯罪白書』<https://www.moj.go.jp/content/001451875.pdf>
(犯罪白書は過去のもも含め法務省HPからダウンロードが可能です。)
- 5) 小長井賀與 2013『犯罪者の再統合とコミュニティ』成文堂
- 6) マーシャル, W. L. 他 小林万洋、門本泉(監訳)2010『性犯罪者の治療と処遇—その評価と争点—』日本評論社
- 7) ヘンゲラー, S. W. 他 吉川和男(監訳)2008『児童・青年の反社会的行動に対するマルチシステムセラピー(MST)』星和書店
- 8) 伊藤 直文 2022『心理臨床における実践的アセスメント 事例で学ぶ見立てとかわり』金剛出版